

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人小林医院		
事業所名	グループホームリラ		
所在地	福岡県北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	平成30年8月17日	評価結果確定日	平成31年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴からの生活習慣を尊重し、出来る限りの本人本位の生活を支援していくことを心がけています。利用者様のご家族だけでなく、地域密着型施設として、近隣住民も気軽に来苑しやすい場所や地域づくりをめざしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年9月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームリラ」は小規模多機能ホームと併設型の2ユニット事業所である。JRと並走する国道から一本路地にはいり、周囲は新興住宅と昔からの民家が混在した住宅街である。運営母体が医療法人であることで、医療連携も手厚く、参種訪問診療により健康管理がされている。最近では地域との定期交流に力を入れており、毎月の食事会にイベントも同時開催し、運営にも地域ボランティアの力を借っている。近くの国道が北九州マラソンのコースにもなっており、炊き出し支援による応援も3年ほど前から取り組んでいる。利用者の以前からの生活習慣を尊重し、夜更かししたいという要望にも無理に回りと合わせることをせず自由にしてもらい、夕食後の入浴介助を提供することもあった。食事にも力を入れており、調理専任のスタッフが工夫を凝らしたメニューを提供し、美味しいものを食べてもらいたいという施設長の思いが込められている。併設の小規模多機能とも一体的にサービスがされており、利用者同士の交流もなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入居様が、住み慣れた環境にて、安心して過ごせるよう支援している。 ・研修時にも理念を意識した内容を取りいれている。	開設時に施設長が作成した経営理念があり、トイレ、ホール、通用口などに掲示しておりいつでも見られるようにされている。毎週行う利用者の状況についてのカンファレンスの中で、理念に書いてあることを念頭にしながら意見を出し合っている。理念にある「穏やかに自分らしくゆつくりとした人生を～」の内容は利用者だけでなく、職員に対しての意味も込められている。	職員一人一人が理念に馴染みをもっているが、更に共有し、実践に繋げていくために、研修や会議で理念自体を取り上げる機会をもって、振り返ってみてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域の自治会との交流を実施している。 ・地域の方がボランティアとして利用者様との交流の機会を確保している。 ・職員、利用者が地域行事に参加している	自治会にも加入しており、敬老会や夏祭りなどの行事には利用者と一緒に参加し、運営の手伝いにも行っている。老人会には施設長が所属し、イベントの告知や、旅行などに一緒に参加する。今年からは事業所主体で毎月食事会を企画するようになり、地域での認知度も高まってきた。地元の小学生から要望があり職場体験の受入れも初めて行った。	自治会での地域清掃の活動はなされていないが、事業所発信での活動を検討しており、実現に期待したい。また、地域に向けて、認知症についての啓もうなどの情報発信の取組がなされていくことも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・校区の老人会に職員が所属し、情報発信をおこなっている。 ・地域開放事業を行い、地域の人と利用者が触れ合う機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居様の毎月の活動内容、事故報告などを通して、行政、地域、ご家族の方から、意見、アドバイスを頂戴している。 ・毎月行うことで参加しやすく、意見を伝えやすい会議になるように努力している。	以前、参加しやすいようにとの家族からの要望があり、毎月運営推進会議を開催するようになった。土曜や夕方以降に開くこともある。家族には全員に案内し、～3名程度が参加されている。参加者も活発に意見を出しており、意見からヒヤリハットの詳細の内容についての報告も行うようになった。	毎月別途開催している食事会との同日開催を検討しており、実施によって日頃の様子を見て頂いたり、サービスを知って頂く機会としての活用が期待される。また、議事録を案内と共に郵送で報告することで、参加されていない家族に対しても、内容を知っていただくツールとして活かしても良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・北九州市の介護保険課の担当職員と運営推進会議をはじめ日頃より相談をおこなっている。	毎月開催されている運営推進会議にも、年間を通して6、7回は市の職員に参加してもらっている。会議の場での質問や報告なども定期的にされており、何かあれば電話で聞いたり、直接訪問してコミュニケーションをとっている。行政サービスのパンフレットをもらったり、事業所のイベント告知もしており、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居様に尊厳のある生活を送ってもらえるよう施設運営を行っている。 ・身体拘束等に関する委員会を毎月開き、介護職員、管理者、ケアマネそれぞれの立場から、適切なケアを実践できるよう協議している。	防犯のため、日中も施錠しているが、出たがる利用者がある際は見守りや付き添って対応している。以前離脱事故があったが、それ以降は見守りも強化し、地域の方にも交流会を通して利用者の顔を覚えてもらっている。直近で予定されている徘徊模擬訓練にも参加予定である。今年から拘束廃止委員会も組織し、内部研修も開催している。	委員会が組織され、今後は定期的な研修の開催を検討している。事例検討や勉強会の実施、外部研修の参加など委員会の効率的な運用がされることを期待される。

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 施設内へのカメラ設置、録画。 管理者による職員への指導の実施 年2回勉強会の実施 		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、成年後見制度のご案内を実施しており、過去に数名ほど活用されていた。 	現在は制度利用者はいないが、以前は成年後見制度の利用があった。今年に管理者が参加した認知症管理者研修の中で権利擁護についての講義があり、資料回覧をした。	研修や勉強会の機会がなかったため、今後事業所全体での制度理解を進めるために定期的な勉強会の開催が望まれる。また、制度の説明が出来るように、パンフレットやマニュアルの整備がなされることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 契約時や更新時に説明を行い、不安点を解消するように努めている。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の活用。 ご家族来苑時の要望の聞き取りを行っている。 ご意見箱の設置 	EV横に意見箱を置いているが意見はなかった。支払いを現金払いにしてもらうことで、ほぼ全員が毎月1回以上は面会に来られており、面会時に意見を聞くことが多い。SNSを利用して写真付きで利用状況を伝えたり、イベントの告知などを行っている。	面会やアンケートなどであがった意見に対して、出来れば事業所全体で共有し、取り組みの内容や利用者の状況に関しても定期的な報告の仕組みが作られることにも期待したい。意見箱の活用に関しても、記入用紙を予め配ったり、匿名性のある設置場所を検討するなどで回収率の上がる工夫をされてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象とした、管理者による定期的な面接の実施。 必要に応じた面談、会議の実施 	毎週決まった曜日にミーティングがあり、利用者の状況や申し送り状況について共有している。職員も気づいたことは意見として上げている。ミーティング記録はノートに残してパート職員とも共有する。管理者も現場にいるため何かあった時は気軽に相談もできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の個性、特性に応じたチーム編成、担当業務の振り分けを行っている。 		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 職員募集の際、性別、年齢、生活状況による採用不採用は行っていない。 	年代は10代から70歳代まで幅広く男女比は6:4程度で男性が多い。無資格での採用もあり、入社後に資格取得する社員もいる。働きやすい環境を目指し、時には子連れで出勤することも出来る。職員も能力を生かしてお菓子作りや調理などに関わっている。休憩スペースはないが、休憩時間は勤務とはわけて取られている。職員間のコミュニケーションもよく取られている。	職員のスキルアップのために研修の情報共有や参加機会が増やされることに期待したい。

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・言葉づかい、接遇等、日々の業務の中で指導している。	今年参加した認知症管理者研修の中での講義内容を資料回覧を通して、事業所内で共有した。毎週の話し合いの中で、利用者に対しての行動についての注意を行っている。	定期的な人権学習の機会を、勉強会や外部研修の参加で作られることが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人外での研修について、研修案内が閲覧できる掲示板を設置し、研修希望者を募っている。 ・職員一人一人がスキルアップ・疑問点の解消ができるよう内部研修を毎週行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・周辺施設への見学を相互に行っている。 また、当法人のイベント等に來られる同業者もおり、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のモニタリングの中で本人、家族のお会いし相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時にお互いの疑問点、不安点を解消すべく、担当者を中心に信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時に、グループホームの入所だけでなく、小規模多機能や外部サービスの提案を含めご家族、本人様の希望に沿った利用をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、利用者様のできることは積極的に関わりをもってもらい、共同生活の構築に努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的な外泊、外出の機会を確保している。 ・外泊、外出時のサポートを行っている。 ・家族に随時適切に利用者様の状況を伝え、情報の共有に努めている。 ・運営推進会議等で気兼ねなく話せる関係づくりに努めている。		

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・施設内での生活だけでなく、想い出の場所への外出レク、一時帰宅等を行っている。	県外に暮らしていた方の郷里に、レクの企画で外出計画を立てて実施した。家族の協力を得て毎週一時帰宅をする方もいる。家族の面会機会は多く、以前近隣の知人が来訪することもあった。地域行事の参加で顔なじみと挨拶を交わすこともある。個別ケアで外出支援を行い、自宅に立ち寄ってもらうこともある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、役割の分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所者の相談、お見舞いを含め、必要に応じて連絡、連携、アドバイス、援助を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の配席の考慮、役割の分担を行っている。実現可能な要望や以前の生活リズムを尊重し、過ごしやすい生活が送れるよう検討している。	入居時に計画作成担当者が本人と家族から聞き取り、1年ごとに見直している。半年ごとにケアチェック表も作成し、現場からの意見も聞き取っている。意向の把握が難しい方に対しては家族に聞き取ったり、日頃の表情や反応から読み取り把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とのお話しの際に情報収集をこまめに行い、新たに知り得た生活歴を全職員と共有し、支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、連絡ノートによる記録により、現状把握につとめている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当会議や面会時におけるコミュニケーションを行い、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようにしている。また、本人の状態観察や現場スタッフへ現状を確認し、対応を考えていきながら、介護計画を作成している。	プラン作成は主に計画作成担当者が携わり、現場の意見は全体の管理者に集約して吸い上げている。プランの見直しは半年ごとに行い、その際に担当会議を開催し、家族に参加してもらう事もある。プラン内容は申し送りや、ファイル閲覧で共有できるようにしているが、実施チェックまではしていない。	プラン目標の実施チェックについて、日々確認できるようにすることで、プラン目標の共有が全体で図れるようになることが期待される。

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録に日々の生活状況を記入してもらっている。 ・直接現場に足を運び、実践状況などを確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状態、状況やご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入やボランティアの受け入れ募集など、施設以外のサービスの検討、訴導入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域周辺のお店、自治会行事、娯楽施設などに、一緒に赴き、地域貢献や気分転換などを図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診施設を調整している。	母体病院が提携医になっており、当初からかかりつけになることが多いが、希望があれば元のかかりつけ医を継続することもできる。他科受診の場合も事業所が支援し、家族と同行することもある。訪問診療に毎週来てもらっており、何かあった時の相談もすぐにできる。異変があった時は随時家族に連絡している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・かかりつけ医と綿密に連携を図り、健康状態の維持、向上をはかっている。 ・利用者の状態を関義歯に伝え、研修等にもりこむようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時にサマリーを提供 ・病院主催の会議等に参加して関係づくりの構築に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調、状態を観察し、主治医と相談のもと家族への報告、今後の対応について相談したのち、ミーティングにて共有をはかる	最期をここで迎えたいとの要望があれば、出来る限りのことをする考えだが、現状では指針も定めていない。	今後の受入れに備えて、看取り指針の作成や書類の準備が進められることが望まれる。事業所としての考えを改めて話し合い、必要であれば体制が整えられることに期待したい。

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、周知している。 ・救命講習を実施している。 ・外部研修受講を促す。 		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回防災マニュアルに基づいたの防災訓練の実施。 ・地域の方が検討している水害を想定した訓練の参加を予定している。 	基本は日中想定で行うが、夜間想定訓練は夜勤専従者の勤務体制上でできていない。以前は近隣の方にも呼び掛けて参加してもらったこともあった。消防署には計画と報告の実施をしている。備蓄物も現状では設備していない。AEDはないが、近隣のコンビニに設置されているとのこと。消防署も近いことで、非常時には迅速に支援をお願いすることが出来る。	消防署への計画報告はあるが、訓練への呼びかけはなかったため、呼び掛けてはどうだろうか。また、地域の方の参加を増やすために、運営推進会議との同日開催や、消防署との合同訓練が企画されることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が常に心がけるようにし、よそよそしくならない程度に、節度ある対応をしている。 ・できていない場合はその都度管理者を中心に指導している。 	親しみをもってもらいながらも失礼のないような対応を心がけており、注意が必要な時には管理者がその都度注意するようにしている。利用者個別の状況についての理解は日々深めて全員で共有には努めている。SNSなどの写真の利用に関しても事前に書面で同意を得た方だけに留めている。	接遇やマナーについての研修や勉強会が定期的実施されることが期待される。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の流れよりも、出来る範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実践している。 		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々にそった、生活リズムを尊重している。(就寝、起床時間等) 		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。 ・ネイルアート、マニキュア等をレクにて行う。 		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、下膳、盛り付けを利用者様と職員が一緒に行っている。 ・外食レクの実施。 	基本は調理専任スタッフによる調理で、メニューは管理者が相談して月間で作成する。食材は買い物や配達で、利用者と一緒に買い出しに行くこともある。おやつレクと一緒に調理したり、手伝えることは手伝ってもらう。職員も同じものを頼んで食べることもあるが、別にする事が多い。食べたい物の要望については個別や少人数での外食で対応している。	

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・状態に応じた食事の形態を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施、見守り、必要に応じて介助を行っている。 ・毎月の訪問歯科の実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できるだけ、リハビリパンツ、オムツを使用しない様支援している ・リハビリパンツ、オムツ使用の方については、誘導時間等を考慮しながら、トイレでの排泄を促している。 ・自尊心を傷つけない様、尿とりパッド等の利用を促す。	トイレ排泄を基本としている。排泄チェック表は個別のものが排便と排尿で分けて取られており、終わった後に転記している。便秘が続く方の排泄誘導などうまくいった情報は共有して支援もしている。本人の自尊心を傷つけないような声掛けなどにも気を付けている。	1週間や1ヶ月の単位で排泄チェック表を見直すことで、誘導時間の変更や失敗を減らす取り組みについて検討されてはどうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘、緩下剤についての知識向上を目的とした、勉強会の実施。 ・水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員配置の中で、できる範囲でご希望を聞きながら、できるだけ本人様の希望に添えるよう実施している。 ・日中だけでなく、夜間も入浴できる様な体制をつくる。	個浴のユニットバスと、併設小規模に特浴が設置されている。基本は週3回だが拒まれた場合も2回は入ってもらうようになっている。午前から昼過ぎにかけてだが、希望があれば夕食後などの時間でも対応している。拒まれた時も無理強いせず気分のいい時などに入ってもらっている。順番も希望であれば考慮する。皮膚観察の場としても役立て、異常時には提携医にも随時相談している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安心して休息できるよう職員全員で気を使っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容を理解し、留意点について理解し、対応を徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の希望等を考慮しながら、入居者様に応じた家事の分担を実施している。 ・買い物、行楽等の外出、おやつ作り等ご希望に応じて参加していただけるよう努力している。		

H30.8自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人様の趣味や要望などをお聞きし、実現に至ることのできるよう、ご家族・職員と話し合い実際に外出できるような支援体制を行っている。	花見に門司港の和布川公園に行ったり、市場に行ったりと、月1回程度は外出レクを実施している。計画以外でも外食に行ったり、個別や少人数でドライブや散歩にも行っている。状態の悪化に伴い外出機会が減っている方もいるが、近場など出来る範囲での外出を企画している。	利用者の重度化や人間的な問題もあり、外出機会が少なくなっているが、ボランティアの活用や企画の検討により外出機会が増やされていく事にも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が難しい方々が多く、ほとんどの方は外出時の買い物の直前にお渡しするようにしている。数名は小分けしたお財布を管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望のある利用者様には携帯電話を持ってもらい、家族に電話できるようにしている。 ・手紙等もらった時は、返事を書けるような支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日々の清掃を心がけ、清潔な環境を保てるように努めている。 ・気温や天気に合わせて、換気や室温調整、採光を行い、快適に過ごせるように努めている。 ・音楽を流すことで、リラックスできる様心がけている。	中庭を挟んで小規模多機能と併設しており、2ユニットは1、2階のそれぞれに配置され、間取りもほぼ共通である。ユニット内はキッチンを中心に回廊型に居室が並んでいる。浴室も三方向介助が出来る浴槽の配置で、洗い場も広めである。リビングの机は六角形形で、半分に分かれることで別個で座することもできる。1Fの中庭にはウッドデッキがあり、床板を外すと足浴ゾーンにもなり、ゆったりと過ごすことが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご自分の席だけでなく、ソファを設置し、自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・在宅時から使っている家具や食器をお持ちいただき、安心できる環境づくりに努めている。	ダークブラウン調のフローリングで、木調の介護ベッドが備え付けられ、必要であれば電動ベッドにすることもできる。持ち込みの禁止物もなく、冷蔵庫を持ち込んで、自室でワインをたしなむ利用者もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人様のADLに合わせ、居室や利用空間への距離を考慮している。また、手すりやその他福祉用具などを活用し、出来る限りご自分の力を使って生活していただけるよう工夫している。 ・何ができるかをしっかり把握し、家事活動などをできるだけ行っていただけるようにしている。		